

性的コンテンツでのネット利用が青少年の性経験に及ぼす影響

○榎淵めぐみ¹・安藤玲子²・鈴木佳苗¹・熊崎あゆち³・桂瑠以³・坂元章³

(¹筑波大学・²金城学院大学・³お茶の水女子大学)

キーワード：パネル調査、Web 調査、因果関係

The effects of Internet use in sexual contents on adolescents' sexual experiences

Megumi KASHIBUCHI¹, Reiko ANDO², Kanae SUZUKI¹, Ayuchi KUMAZAKI³, Rui KATSURA³ and Akira SAKAMOTO³

(¹Univ. of Tsukuba, ²Kinjo Gakuin Univ., ³Ochanomizu Univ.)

Key Words: panel study, web survey, causal relationship

目 的

青少年の性の問題について、しばしばインターネット（ネット）の悪影響論が展開されているが、青少年を対象とした研究は少ない。例外的に榎淵他（2011）は、高校でのパネル調査により、ネット利用が高校生の性経験に影響を及ぼすことを示した。しかし、性経験の影響源となるコンテンツは性的内容を含むと考えられるが、榎淵他（2011）で測定されたネット利用は性的なコンテンツに制限されない全般的利用であり、性的・非性的コンテンツを区別したネット利用の影響については検討されていない。本研究の目的は、榎淵他（2011）と同様の全般的なネット利用に加え、性的なコンテンツのネット利用が高校生の性経験に及ぼす影響を検討することである。そのために、本研究では、web 調査の手法を用いて、青少年を対象とする 2 波パネル調査を行った¹。

方 法

調査時期 1 回目調査（T1）は 2011 年 10～11 月、2 回目調査（T2）は 2012 年 2 月であった。

調査対象者 2 回の調査に回答した 15～19 歳の青少年 715 名（男子 332 名・女子 383 名）を分析対象とした。T1 での平均年齢は 16.99 歳であった。

質問項目 **全般的なネット利用**：榎淵他（2011）と同様に、コミュニティ・サイト、動画サイト、自作小説・マンガのサイト、公式サイト・ブログの 4 ジャンルについて、1 週間の平均利用時間を、使っていない（0）、10 分未満（1）、10～30 分（2）、30 分～1 時間（3）、1～2 時間（4）、2～3 時間（5）、3 時間以上（6）、の 7 件法で尋ねた。4 項目の合計を全般的な利用とした。**性的コンテンツのネット利用**：セックス描写を含む動画サイトの閲覧と投稿、セックスのテクニックを教えるサイトの閲覧、性体験の告白・体験談サイトの閲覧と投稿、出会い系サイトの閲覧と書き込み、恋愛体験ができるオンラインゲームへの参加、の 8 項目について、1 ヶ月の平均利用日数を、全くしない（0）、4 週間に 1 日（1）、3 週間に 1 日（2）、2 週間に 1 日（3）、週に 1 日（4）、週に 2～3 日（5）、週に 4～5 日（6）、週に 6～7 日（7）、の 8 件法で尋ねた。8 項目の合計を性的コンテンツの利用とした。**性経験**：二人きりのデート、キス、ペッティング、コンドームを使ったセックス、コンドームを使わないセックス、について、経験の有無を尋ねた。コンドーム使用と不使用のセックス経験の和集合を求め、「セックス経験」全体の指標を合成した。**デモグラフィック変数**：年齢、性別を尋ねた。

手続き 大手 web 調査会社のモニターを対象に実施された。

結 果

基礎統計量 ネット利用の平均値と性経験率を男女別に求めた結果を表 1 に示す。**ネット利用**：全般的なネット利用は男子よりも女子の方が多く、性的コンテンツのネット利用は逆に女子よりも男子の方が多かった。**性経験**：T1 での性経験は、男女とも、デートは 3 割以上、ペッティングは 2 割程

度、セックスは 1 割程度であった。総じて女子の経験率が男子よりも高かったが、コンドーム不使用のセックスのみ男子の経験率が女子よりも高かった。

因果関係 ネット利用が性行動に及ぼす影響を検討するために、T2 の性経験の有無（0/1）を従属変数、T1 のネット利用を独立変数とするロジスティック回帰分析を、男女別に行った。本分析では、オッズ比（OR）が 1 より大きければ正の効果が、1 より小さければ負の効果があることを意味する。なお、従属変数となる性経験の各々について、T1 の性経験が「あり」であった者が、T2 で経験「なし」となることは論理的に起こり得ないため、各分析の対象者は、T1 の当該性経験が「なし」の者のみを抽出した。

分析の結果、女子では有意な効果は検出されなかった。男子の結果では、全般的なネット利用の効果は見られなかったが、性的コンテンツの利用については、ペッティング（OR=1.10*）、セックス全体（OR=1.19***）、コンドームあり（OR=1.19***）およびコンドームなし（OR=1.11**）のセックスに対して正の効果が有意であった。

考 察

榎淵他（2011）で示された全般的ネット利用の影響は、本研究では有意とならなかった。これは、2 回の調査の間隔が、榎淵他（2011）の半年に対し本調査では 3.5 ヶ月と短いため、効果が検出しにくかった可能性が指摘できる。そうであるならば、同じ間隔でも検出された性的コンテンツのネット利用の効果は、全般的利用よりも短期間で顕在化する、あるいは強い影響力を持つことが示唆されるだろう。

表 1 男女別のネット利用の平均値と性経験率

		男子		女子	
		T1	T2	T1	T2
ネット利用	全般的利用	5.3	4.9	7.2	6.9
	性的コンテンツ	3.2	3.5	.9	1.2
性経験 (%)	デート	31.9	36.1	37.0	43.6
	キス	22.6	29.1	32.0	36.3
	ペッティング	18.6	23.4	20.7	26.5
	セックス	9.5	12.8	10.1	13.2
	・コンドームあり	8.3	11.9	9.5	12.4
	・コンドームなし	4.9	7.6	4.5	6.9

引用文献

榎淵めぐみ他（2011）メディア利用が青少年の性行動に及ぼす影響（1）—ジャンル別のインターネット利用— 日本社会心理学会第 52 回大会発表論文集，299。

¹注：本研究は、三菱総合研究所、安心ネットづくり促進協議会と連携して行われた。